



国土交通省 中部地方整備局

富士砂防事務所

Mount Fuji Sabo Office, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism



Press Release

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

令和3年8月27日
国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所

富士山大沢川で土石流が発生しました（続報）

8月12日～19日にかけての降雨で、富士山大沢川で複数回の土石流が発生しました。その後の調査の結果、砂防施設（大沢川遊砂地）が効果を発揮したため、被害はなく、大沢川遊砂地で捕捉した土砂量は合わせて約23万 m^3 （速報値）でした。

また、出水後の臨時点検により管内の複数箇所でも土砂の移動が確認されましたが、大沢川遊砂地と同様に砂防施設が効果を発揮したため、被害はありませんでした。

1. 内 容（別紙1・別紙2）

富士山周辺では、8月12日～19日にかけての降雨により、大沢川上流の大滝雨量観測局では時間最大雨量90mm（8月15日8時～9時）、累加雨量1450mmを観測しました。

15日及び18日に岩樋観測所の監視カメラで土石流の発生をそれぞれ確認しましたが、大沢川遊砂地が効果を発揮し、下流域での被害はありませんでした。

その後、8月23日から26日にかけてドローンを活用した計測を行い、解析を行ったところ、大沢川遊砂地で捕捉した土量が約23万 m^3 （速報値）に達することが判明しました。

これは大沢川遊砂地を設置して以降、一回の降雨による土砂捕捉量としては、令和3年3月21日、平成12年11月21日の土石流に次ぐ過去3番目の規模です。

また、出水後に管内の砂防施設の臨時点検を行ったところ、富士山大沢川以外でも複数の箇所でも土砂の移動を確認しましたが、点検の結果、砂防施設が効果を発揮したため、下流域での被害はありませんでした。

2. 配 布 先：静岡市政記者クラブ、富士宮市記者クラブ、富士記者クラブ 山梨県政記者クラブ

3. 備 考：記者発表資料は「富士砂防事務所ホームページ」にも掲載しています。

<https://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/index.html>

また、土石流の映像は提供可能です。必要な場合は、下記代表メールアドレスまでお問い合わせください。

【問合せ先】 国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所

事業対策官 大森 徹治

調査課長 村松 弘一

TEL 0544-27-5387

メール cbr-fujisabo@mlit.go.jp

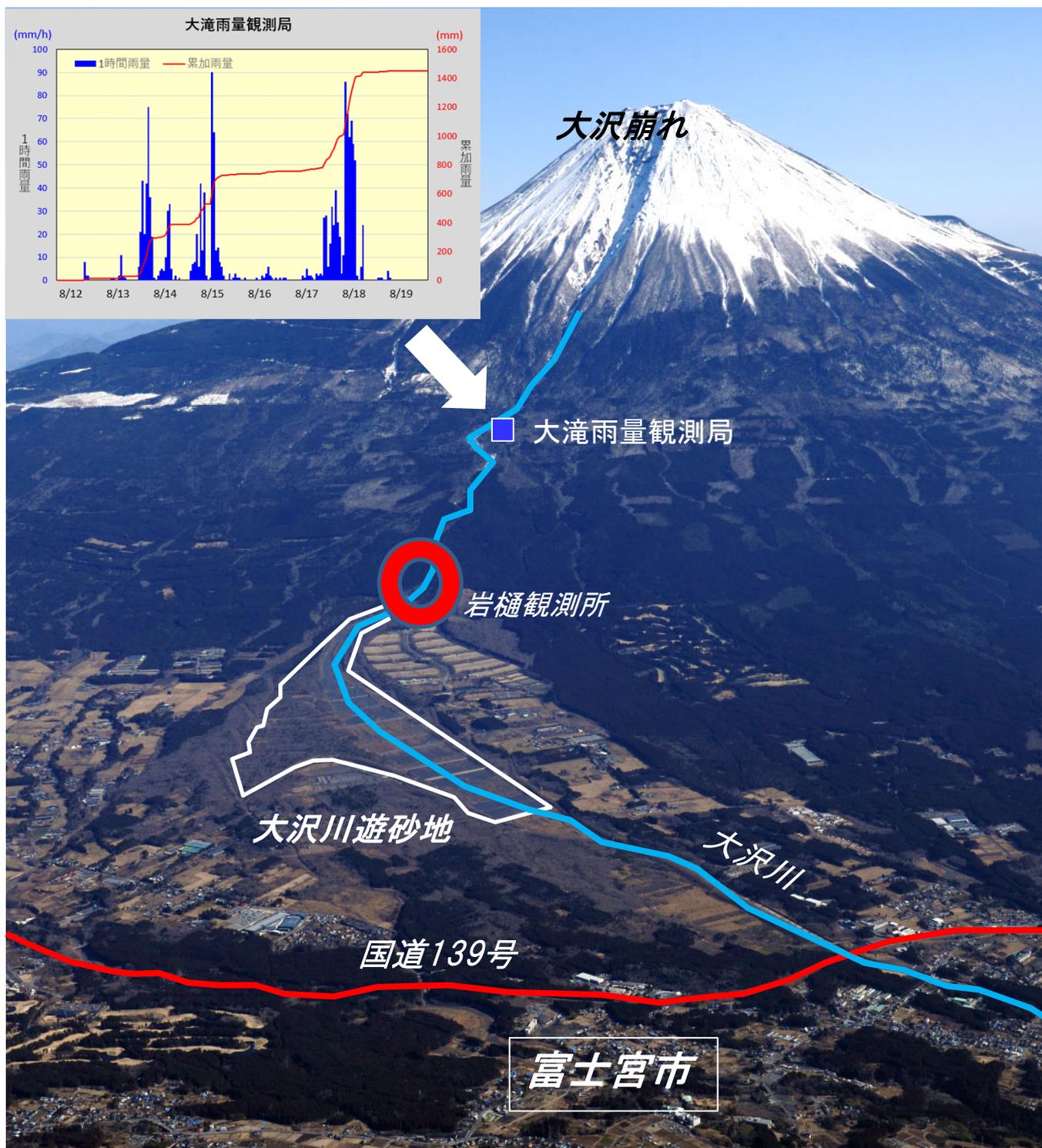
1. 大沢川の土石流と、遊砂地の効果

別紙-1-1

8月12日～19日にかけての降雨で発生した土石流は、その後の調査で大沢川遊砂地で捕捉した土砂量が合わせて約23万 m^3 (速報値)であることが判明しました。

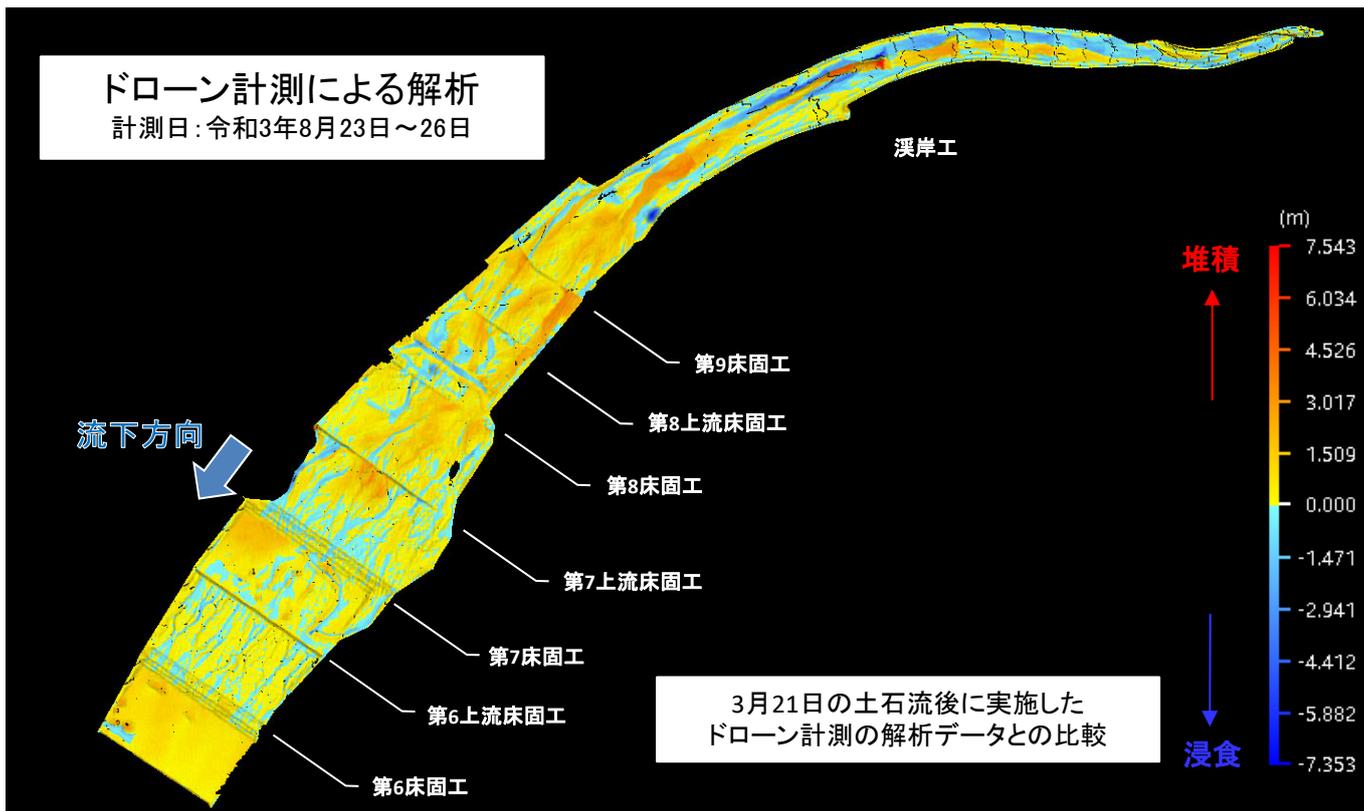
一回の降雨で流入・捕捉した土砂量としては、令和3年3月21日、平成12年11月21日の土石流に次ぐ**過去3番目**の土砂量です。

位置図



2. ドローンを活用した土砂捕捉量解析

別紙-1-2



大 沢 川 遊 砂 地
土 砂 捕 捉 量 : 約 23 万 m^3 (速 報 値)
(一回の降雨による土砂捕捉量では過去3番目)

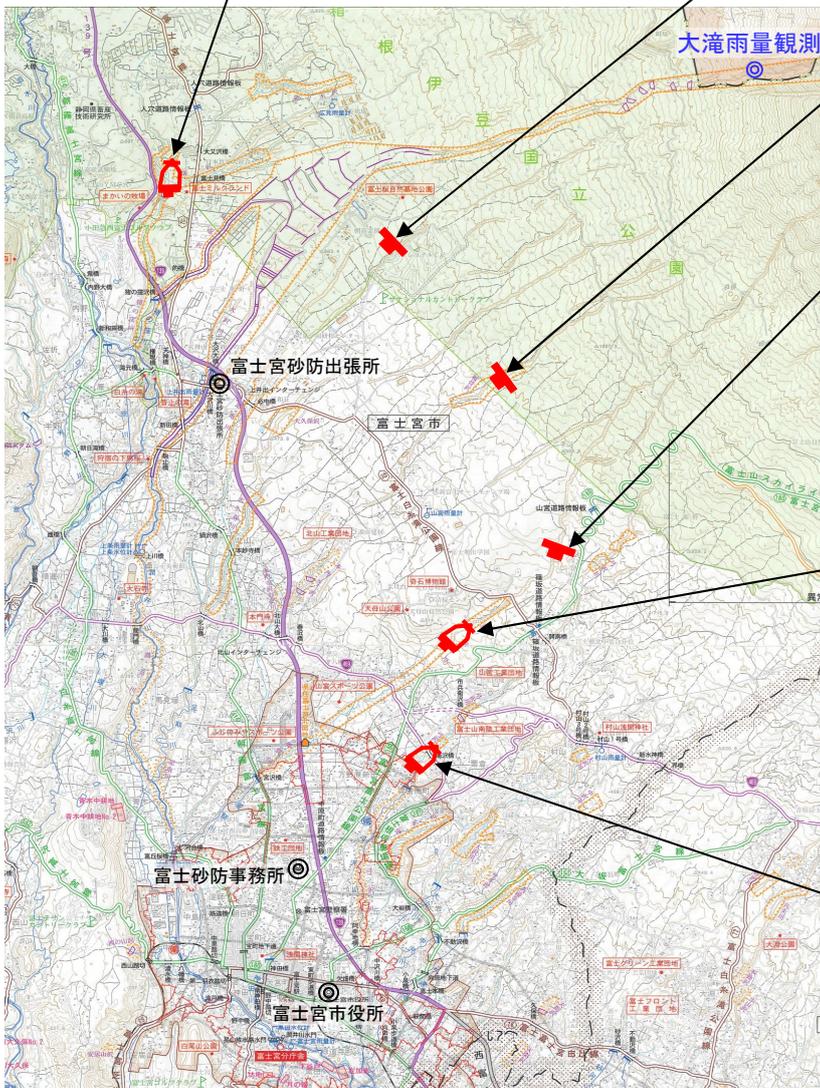
3. 富士砂防事務所管内での施設効果

別紙-2

8月12日～19日にかけての降雨で、富士山大沢川以外でも複数の箇所では土砂の移動が確認されましたが、砂防施設が効果を発揮し、下流域への被害はありませんでした。

臨時点検により確認された土砂の捕捉状況写真を以下にまとめています。

位置図



※沈砂地と遊砂地は、構造が異なりますが機能・目的はともに土砂を堆積させるポケットを整備するものです。

沈砂地・・・現地盤を掘り下げて、穴状にポケットを整備した構造

遊砂地・・・砂防堰堤と築堤を組み合わせポケットを整備した構造